

素材の販売面からみた木曾ヒノキの重要性と問題点

上松運輸営林署経理課 村 井 浩

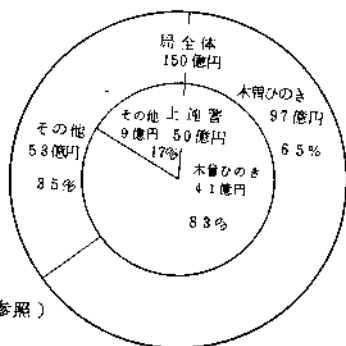
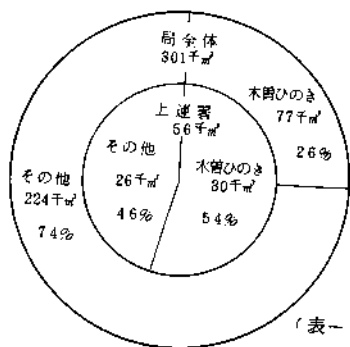
はじめに

国有林事業の経営収支が急速に悪化し、深刻な段階を迎えている。

現在、営林署段階における日常担当業務のなかで、特に痛感されることが二点ある。第一点は、きびしい予算事情を反映した各種予算の執行であり、第二点は収入確保の重要性である。当署の場合はもちろん、長野局においても「木曾ヒノキ」を抜きにしての収入対策は考えられない。何故ならば、長野局における過去3カ年(47~49)の年平均販売額は約150億円であるが、このうち「木曾ヒノキ」は65%97億円を占めているからである。

図-1 総販売量に占める木曾ひのきの割合

図-2 総販売額に占める木曾ひのきの割合



(表-1, 2参照)

しかし、「木曾ヒノキ」の蓄積は無限ではない。漸減する伐採量は、収入額の減少をもたらすのみでなく、供給量の減少となって、木材業界、特に地元随契工場の原木供給面に大きな影響を及ぼしてくる。

そこで「木曾ヒノキ」の販売面に果している役割と、今後の問題点と対策について考察してみた。

1. 販売面からみた「木曾ヒノキ」の重要性

重要性の価値判断の基準は、販売量及び販売額について、他の樹種との比較により行なってみた。(表-1, 2参照)

長野局の過去3カ年(47~49)の年平均販売量は、301千m³で、これに対する「木曾ヒ

ノキ」は77千 m^3 の26%である。また、販売額150億円に対しては、65%の97億円となる。上運着の場合は量で54%、額では83%となり、「木曾ヒノキ」のウエイトは、さらに高くなっている。

2 「木曾ヒノキ」の販売単価の特徴

わずか1樹種でありながら、総販売量の26%、総販売額の65%を占めていることは、いかに販売単価が高いかが分る。そこでこの特徴を、当署の主要樹種別販売単価の推移表(表-3)から分析すると、

(1) 45年度の各樹種の単価を100とした場合、49年度における各樹種の単価の伸び率は、「木曾ヒノキ」は315%の約3倍であるのに対し、サワラとモミ、ツガは、205%の約2倍の伸び率に止まっている。

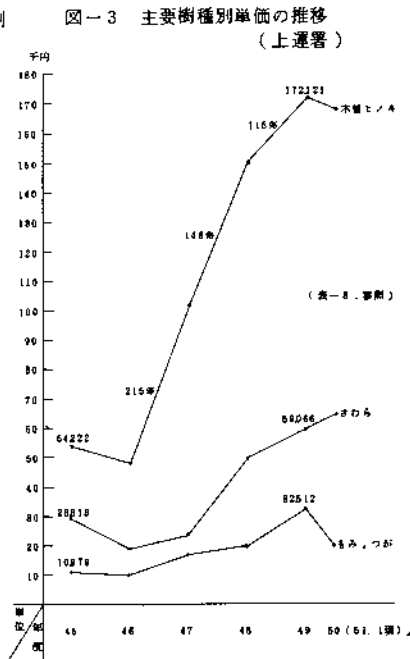
(2) 木曾ヒノキを100とした場合の他の樹種との単価格差率について比較してみると、45年度では、サワラ53%、モミ、ツガは20%である。それが4年後の49年度では、サワラは34%、モミ、ツガは13%で「木曾ヒノキ」に対する単価格差率が拡大していることが分る。

3 「木曾ヒノキ」の販売量の推移と今後の予測

(1) 販売量の推移(表-4参照)

①、45年度を100として、49年度を対比してみると、伐採量は51%、販売量は54%に減少している。②、伐採量は47~48年度にかけては70%、48~49年度にかけても78%に減少しており、45~47年度間の対前年度比の減少率より高く、今後に不安を残している。この原因は、当時から急速に高まってきた自然保護等森林の持つ公益性重視に対応した施策と、レイノ-関係によるものと思われる。

販売量は1年遅れて48~49年度にかけて対前年度比73%と急激に減少しているが、これは、前述した伐採量の影響と思われる。



(2) 今後の販売量の予測(表-5参照)

販売量の予測は、木曾谷第2次地域施策計画書の「木曾ヒノキ」の伐採予定量を基礎値とし、まず過去3カ年(47~49)の伐採量に対する生産比率により、生産量を算出し、さらにこの「木曾ヒノキ」の生産量に、過去3カ年(47~49)の販売量率を乗じて、予測販売量を算出した。この予測販売量を考察した結果、49年度の販売実績は60千 m^3 であるが、9年後の58年度(Ⅲ分期)の販売量は40千 m^3 で33%減の予測となる。

以下49年度実績量と比較すると、73~77年度(VI分期)では、37千 m^3 で38%の減、88~92年度(Ⅸ分期)では35千 m^3 で42%減に、98~102年度(XI分期)では14千 m^3 で77%も減となることが予測される。

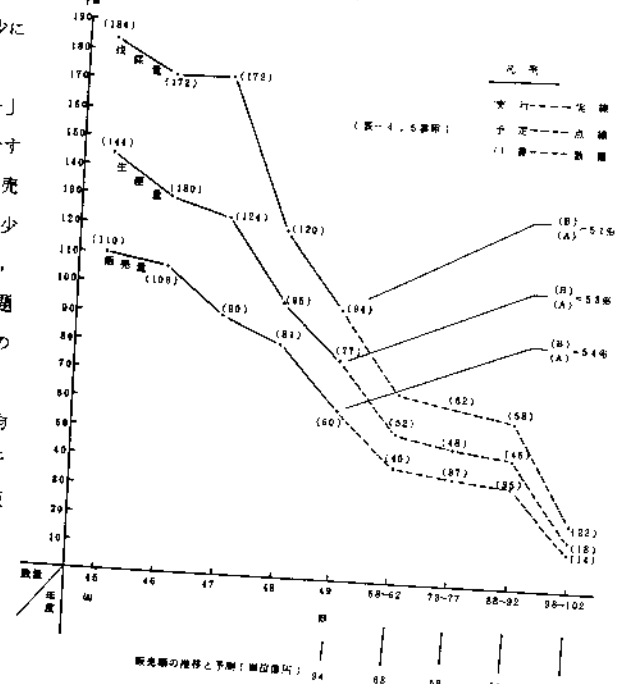
4 「木曾ヒノキ」の

減少による問題点

(1) 販売量の減少による問題点

「木曾ヒノキ」の販売量が減少することは、即販売額と収入額が減少することとなり、これが最大の問題点である。今後の予測販売量から、49年度の局平均販売単価157千円を基礎に予測販売額を試算してみた。49年度の「木曾ヒノキ」の販売額は94億円であ

図-4 木曾ヒノキの伐採量、生産量、販売量の推移と予測(素材)



る。58~62年度(Ⅲ分期)では63億円、73~77年度(Ⅵ分期)は58億円、88~92年度(Ⅸ分期)では55億円、98~102年度(Ⅺ分期)では実に22億円と、49年度の23%である。かつてない財政危機に直面している現在からみて予測であるにしても、

問題は大きい。過去数回あった国有林野事業の財政的ピンチは、いずれも材価高騰により、時が解決してくれた。

しかし、資源量の不足から生ずる収入減は材価高騰でカバーできる範囲を超えているものとみるべきであろう。以上の考案結果から長野局の経営収支の悪化が予想され、ひいては、国有林野事業の財政事情にも悪影響を及ぼすこととなる。

② 供給量の減少と地元随契工場の実態と問題点 (表-6~9参照)

49年度に実施した、局管内の地元随契工場の実態調査表から、国有林材の依存度を、木曾地区連合公売の取得率から競争力をそれぞれ分析してみた。

①国有林の依存度は、東北信の19%、中南信の23%に対し、木曾は84%ときわめて高い。②競争力については、地域別の総量取得率は、愛知13%、岐阜の22%に対し、木曾は、52%と高い取得率を示している。

しかし、「木曾ヒノキ」の総取得量に対する地区別「木曾ヒノキ」の取得率は、愛知が21%、岐阜が31%と総量取得率より高く、木曾は、45%と総量取得率より低下している。さらに、地区の取得総量に対する地区の「木曾ヒノキ」の取得率をみると、愛知の56%、岐阜の50%は、取得量の約2分の1は「木曾ヒノキ」であるのに対し、木曾は、29%と取得量の3分の1にとどまっている。

以上の結果から、木曾地区は国有林材の依存度はきわめて高く、取得率からみた競争力は、総量取得率でみる限り意外なほど高いが、関心の的となっている「木曾ヒノキ」については、愛知、岐阜よりかなり低率で、競争力が弱いとみられる要素を示している。しかし、木曾地区については、随契を主体に、限定公売、指名と確実に木曾地区の取得量となる販売方法別数量が供給されているため、現在の競争力も、随契主体に支えられているものと思われる。国有林材供給量の減少化という宿命のなかで、国有林材の依存度が高く、自力競争力の弱いというのが木曾地区随契工場の実態である。

木曾ヒノキの49年度の供給量(販売量)は約60千³mであるが、公売の取得率から推算した他地区流出分を除いた木曾地区で消費される木曾ヒノキの原木量は47千³mと推定される。今後、原木獲得競争、買い占めによる材価の高騰等が憂慮されるところである。国有林材の価格安定並びに安定供給についてなお一層の検討が必要と思われる。

5. 「木曾ヒノキ」の今後の問題点の集約

(1) 経営内部の問題点

国有林野事業特別会計におよぼす収入額の大巾な減少

(2) 経営外部の問題点

特にヒノキ業界に対する原木供給の大巾な減少

6. 今後の対策

大正時代のヒノキ優良造林地について、長伐期(100~150年生)大材林を指定し、木曾ヒノキに類似した銘木、良質材を育成すべきである。

図-5 販売ブロック別原木消費量の実態 (49年度)

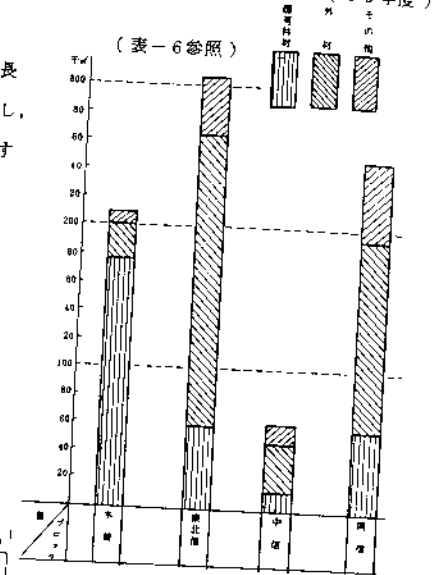
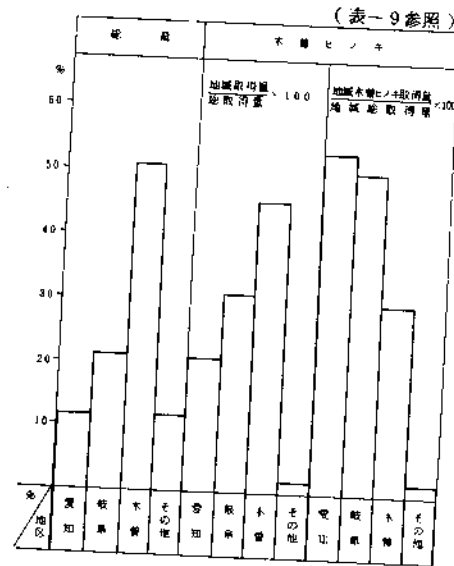


図-6 木曾地区連合公売地域別取得量 (50年度)



総販売量と額に占める木曾ヒノキの推移

表-1 販売量の推移

年度 地区別	47						48						49						平均					
	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)				
	数量内	%	数量(B)	%		数量内	%	数量(B)	%		数量内	%	数量(B)	%		数量内	%	数量(B)	%					
総販売量	372675	100	89807	100	24%	301586	100	81684	100	27%	239127	100	59697	100	26%	301465	100	77063	100	26%				
木曾地区	172502	46	55000	61	32	137767	46	49368	60	36	106621	46	35292	59	33	138963	46	46553	60	34				
上運番	62450	18	34284	38	51	58709	19	31688	39	54	41661	18	24140	40	58	55940	19	30937	39	54				
木曾地区計	239952	64	89284	99	37	196476	65	81956	99	41	143282	64	59432	99	40	194903	65	76590	99	39				
その他の地区	132723	36	523	1	04	105110	35	628	1	06	81845	36	265	1	03	106560	35	473	1	04				

表-2 販売額の推移 (単位千円)

年度 地区別	47						48						49						平均					
	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)	全樹種		木曾ヒノキ		比率 (B/A)				
	金額(A)	%	金額(B)	%		金額(A)	%	金額(B)	%		金額(A)	%	金額(B)	%		金額(A)	%	金額(B)	%					
総販売額	13249891	100	8644427	100	65	17371472	100	1105623	100	64	14289959	100	9360660	100	66	14979440	100	9703570	100	65				
木曾地区	7309384	55	5105116	59	70	9152269	53	6314297	57	69	7631695	53	5181101	55	68	8032116	54	5533505	57	69				
上運番	4238343	32	3520362	41	83	5861376	34	4746841	43	81	4866990	34	4154979	44	85	4988603	33	4140727	43	83				
木曾地区計	11547727	87	8625478	100	75	15013645	87	11061138	100	74	12500785	87	9336080	99	75	13020719	87	9674232	100	74				
その他の地区	1702164	13	18949	1	1	2357827	13	4485	2	1789174	13	24580	1	1	1949221	13	29338	1	1					

(注) 1. 実行総販売資料より
2. その他の地区は天然ヒノキである

表-3 主要樹種別販売単価の推移 (上運番)

年度 樹種別	45				46				47				48				49				50			
	単価	指数			単価	指数			単価	指数			単価	指数			単価	指数			単価	指数		
		A	B	C		A	B	C		A	B	C		A	B	C		A	B	C				
木曾ヒノキ	54,222	100	100	47,688	88	100	102,683	189	215	100	149,810	276	146	100	172,121	315	115	100	167,957	310	98	100		
サツク	28,813	100	53	19,262	67	40	23,993	83	125	23	49,900	173	208	33	59,066	205	118	34	64,584	224	109	38		
ヒノキ	18,336	100	34	13,892	76	29	28,782	157	207	28	49,027	267	170	33	38,559	210	78	22	41,518	226	108	25		
トズコ	13,084	100	24	12,512	96	26	19,575	150	156	19	35,441	271	181	24	30,184	231	86	18						
コクヤマキ	5,608	100	104	103,479	183	217	7,2390	128	70	70	10,2055	180	141	68	7,9581	141	78	46						
ヒノシガ	10,979	100	20	9,598	87	20	16,500	150	172	16	19,840	181	120	13	32,512	205	113	13	20,124	183	82	12		
ツツノ	15,707	100	29	12,960	83	27	39,845	254	307	39	45,388	289	114	30	28,627	187	95	17						

(注) 1. 当期の決算資料より
2. 指数Aは45年度を100とした場合、Bは対前年度比、Cは木曾ヒノキを100とした場合の相対比である。
3. 50年度は、51年1月までの実行単価である。

表-4 木曾ヒノキの伐採量、生産量、販売量の推移（木曾地区）

（単位：千m³）

区分	45		46		47		48		49		100 (A)								
	全樹種	木曾ヒノキ (A)	全樹種	%	木曾ヒノキ	%	全樹種	%	木曾ヒノキ	%									
伐採量	404	184	390	97	172	93	389	100	172	100	74	120	70	221	77	94	78	51	
生産量	(77) 373	(78) 184	(79) 395	94	(76) 130	90	(72) 281	95	(72) 124	95	(78) 225	80	(79) 93	77	(81) 180	80	(82) 77	81	53
販売量	(81) 253	(76) 184	(84) 249	98	(82) 106	96	(85) 240	96	(73) 90	85	(88) 197	82	(85) 81	90	(82) 148	75	(77) 59	73	54

- (注) 1. 資料は専修統計書より。
 2. %は対前年度比である。
 3. 木曾ヒノキの生産量は、伐採樹種別割合により算出した。
 4. () 書は伐採量に対する生産量、生産量に対する販売量の比率である。

表-5 木曾ヒノキの生産量と販売量の子割表（木曾地区）

（単位：千m³）

区分	分 期 年 度	分 期 年 度												
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII
		48~52	53~57	58~62	63~67	68~72	73~77	78~82	83~87	88~92	93~97	98~102	103~107	108~112
伐採量	分 期	472	472	332	374	334	308	297	302	290	237	112	122	104
	年 度	944	944	660	740	668	616	594	604	580	474	224	244	208
生産量		736	736	515	577	521	480	463	471	452	370	175	190	162
販売量		667	567	397	444	401	370	357	363	348	285	135	146	125

- (注) 1. 伐採子割量は、木曾谷第2次地域施策計画第1次変更計画書による。
 2. 伐採量の分前期は各分前期(5年間)の伐採量で、年度は各分前期の1会計年度の伐採量である。
 3. 生産量、販売量は1会計年度における生産量、販売量で、過去3年間(47~49)の生産比率(73%)販売比率(77%)から求めた。

表-6 販売ブロック別原木消費量調査表（49年度）

（単位：百m³）

区分	ブロック別	国有林材(A)		公私有林材		外材		計(B)		(A) (B)
		(A)	%	(B)	%	(C)	%	(D)	%	
東北信		(23) 566	19	485	38	1,982	50	3,056	37	19
	中 信	(54) 89	5	137	11	345	9	625	8	23
南 信		(221) 359	19	571	45	1,364	34	2,514	30	23
	木 曾	(603) 1,170	57	80	6	264	7	2,117	25	84
計		(901) 2,184	100	1,273	100	3,955	100	8,312	100	37

- (注) 1. 小規模木工を除く。
 2. (A)、(B)は国有林材依存度。
 3. (A)の消費は直接入手量で()書は間接入手量である。

表-7 動力出力数調査表

（千kWh）

区分	動力数	%
東北信	12,008	31
中 信	3,071	8
南 信	10,239	27
木 曾	12,859	34
計	38,177	100

- (注) 1. 小規模木工を除く。

表-8 地元随契工場数調査表

区分	工場数	製材		木L		計		小規模木工		合計	
		%	%	%	%	%	%	%	%		
東北信	98	35	15	15	113	30	43	36	156	32	
中 信	23	8	9	9	32	8	9	8	41	8	
南 信	76	27	12	12	88	23	21	18	109	22	
木 曾	83	30	61	64	144	39	45	38	189	38	
計	280	100	97	100	377	100	118	100	495	100	

- (注) 1. 小規模木工を除く。

第9表 木曾地区連合公売地減別取得量調査表(50年度)

月別	地域別	管内		管外					計	備考
		木曾	系内	室知	岐阜	関東	関西	その他		
4	総量	2,134	496	424	925	-	131	142	4,253	1. 取得量は木曾地区連合会公売の分析資料より 2. 不落額契書は含まれない。 3. 取得率欄の総量の()内は全取得量に対する地区の取得総量の比率であり、木曾ヒノキの()内は木曾ヒノキの全取得量に対する地区の木曾ヒノキの取得量の比率である。 4. 取得率欄の木曾ヒノキの横書きは地区の総取得量に対する木曾ヒノキの取得量の比率である。 5. 50年度12月末現在である。
	木曾ヒノキ	609	-	200	473	-	109	-	1,391	
5	総量	3,098	554	866	1,198	-	105	19	5,840	
	木曾ヒノキ	713	123	459	634	-	60	-	1,989	
6	総量	3,363	441	529	1,159	-	40	111	5,643	
	木曾ヒノキ	866	-	373	395	-	40	-	1,674	
7	総量	2,595	322	646	1,448	-	90	74	5,175	
	木曾ヒノキ	424	-	348	788	-	10	-	1,570	
8	総量	2,908	318	528	1,103	46	56	161	5,120	
	木曾ヒノキ	793	6	300	519	-	5	82	1,705	
9	総量	3,318	509	1,333	1,424	99	363	-	7,046	
	木曾ヒノキ	808	107	675	649	50	6	-	2,295	
10	総量	4,547	757	1,070	1,730	-	519	33	8,656	
	木曾ヒノキ	1,022	-	449	960	-	-	-	2,431	
11	総量	4,282	718	1,225	2,118	-	108	-	8,451	
	木曾ヒノキ	1,815	-	742	1,100	-	-	-	3,657	
12	総量	4,528	980	1,058	1,519	-	194	37	8,316	
	木曾ヒノキ	1,981	-	766	821	-	36	15	3,603	
計	総量	30,773	5,095	7,679	12,625	145	1,606	577	58,500	
	木曾ヒノキ	9,031	236	4,312	6,339	50	266	97	20,331	
取得率	総量	(52) 100%	(9) 100%	(13) 100%	(22) 100%	(-) 100%	(3) 100%	(1) 100%	(100) 100%	
	木曾ヒノキ	(45) 29	(-)	(21) 56	(31) 50	(-)	(1)	(1)	(100) 100	